

第16回女性研究者サイエンスグラントの受賞者を決定

資生堂

資生堂は、第16回「女性研究者サイエンスグラント」の受賞者10名を選出し、7月6日、「サステナブルな社会の実現を目指す女性研究者同士のネットワーク構築」をテーマにした授賞式を、資生堂グローバルイノベーションセンターにて開催した。

同グラントと、自然科学分野の幅広い研究テーマ(理工学系・生命科学系全般)を対象に、2007年の設立以来、毎年最大10名の女性研究者へ研究助成を支援すること、科学技術の発展につながるという考えのもと、受賞者に贈られる各100万円の助成金は、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立するための環境整備(学会参加の際の託児費用や研究補助員の雇用等)にも柔軟に活用できることが特長で、グラントを通じて受賞者同士の交流や共同研究は、受賞者の研究活動、キャリア形成のサポートにもなっている。

00万円の助成金は、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立するための環境整備(学会参加の際の託児費用や研究補助員の雇用等)にも柔軟に活用できることが特長で、グラントを通じて受賞者同士の交流や共同研究は、受賞者の研究活動、キャリア形成のサポートにもなっている。

SCIENCE GRANT SHISEIDO FEMALE RESEARCHER



ビタブリッドジャパン 代表取締役

大塚 博史 氏



現在、ビタブリッドジャパンで代表取締役を務める大塚氏は、大学卒業後に広告代理店に入社し、主にダイレクタマーケティング事業の事業企画・販促企画・メディア、CRM企画に従事した。その後、大手健康食品会社の通販事業を初期から数百億円規模に

「プレイヤー」としての経験がいままコンサルティングをしてい

広告代理店の経験を活かし起業 責任と権限を与え成長促す

現在、ビタブリッドジャパンで代表取締役を務める大塚氏は、大学卒業後に広告代理店に入社し、主にダイレクタマーケティング事業の事業企画・販促企画・メディア、CRM企画に従事した。その後、大手健康食品会社の通販事業を初期から数百億円規模に

接コンタクトの取れるD2C形態を主として展開している。数十億規模のEC売上を達成している同社では、社員一人ひとりが持つ権限を大きくすることで、スピード感

「重視している基礎の部分だけは日々チェックしているが、それ以外は同業他社と比較してもかなり権限を移譲している。チームを成功に導くためには、考えすぎて初動が遅くなることは極力避け、すばやく行動・検証することが重要だ」(大塚氏)

(禁無断転載) ©R 本紙の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、堅く禁じられております。 本紙からの複写を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。

対して助成を行っている。

別役割分担意識が家庭と仕事との両立を困難にする中、様々な悩みを抱えている女性研究者の実態が浮き彫りになった。一方、同グラントを受賞して良かったことについて、同社では女性研究者の現状について、過去の受賞者を対象にアンケート調査(2022年11月16日、送付者119名、うち回答者74名)を実施したところ、8割以上の研究者が「女性ゆえに困っていることがある」と回答した。その理由として最も多く挙げられたのは「家庭と仕事の両立が困難である」で、「女性研究者が少なく立場が理

皮膚バリア研究の最新知見をオンライン配信

皮膚の健康科学セミナー 皮膚バリア研究のフロンティア